

オプション検査 「ペプシノーゲン検査」のご案内



胃がんになる危険性の高い方を見つける血液検査です。

※お申し込みの健診コースに胃の検査が含まれていない方にお勧めします。

ペプシノーゲン検査とは

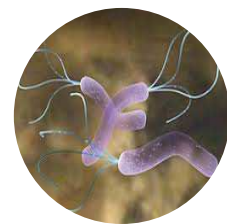
ペプシノーゲンは、胃液に含まれるペプシン（たんぱく質を分解する酵素）の元となっている物質で、胃の粘膜細胞で作られます。ペプシノーゲンは血液の中にも存在するので、この血液中のペプシノーゲンの値を測ることで「萎縮性胃炎の有無」を判断することができます。

萎縮性胃炎が進行すると胃がんになる率が高まります

慢性的な炎症が長い間続いて胃粘膜の障害が進むと、胃酸を出す胃腺がひどく収縮して、胃の粘膜が薄く血管が透けてみえるようなぺらぺらの状態になります。この胃粘膜が萎縮した状態を『萎縮性胃炎』といいます。萎縮性胃炎が進行すると胃がんになる可能性が高くなることが統計上わかっています。萎縮性胃炎を的確に診断することが胃がんの早期発見につながります。

ピロリ菌検査も併せてお勧めします

最近までの研究で、萎縮性胃炎の原因のほとんどがヘリコバクター・ピロリ菌という細菌によって引き起こされていることが分かってきました。ペプシノーゲン検査と併せてピロリ菌検査を受けられることをお勧めします。



約3割が癌で死亡

厚生労働省は、「2009年人口動態統計月報年計」を公表しました。死因順位は癌の34万3,954人で、心疾患の18万602人、脳血管疾患の12万2,274人と続いております。

死因順位1位の癌は、1963年の調査開始以来、一貫して上昇を続けており、09年度の全死亡者に占める割合は**30.1%**になっています。癌を部位別で見ると、男性で最も多いのは「肺」で、以下「胃」「大腸」と続きます。女性は「大腸」「肺」「胃」の順番で続いています。

【料金】
3,000円（税別）

お申込み・お問合せ 溪仁会円山クリニック
電話 (011)611-7766

